

自己実現への道

第99回 ― 第8章 「信念さえあれば必ず道は開ける」(その3)

★ 世の暗さを罵るより、自分からローソクに火をともしせ！

「世の暗さを罵るよりは、一本の路ローソクをともし方がよい」

フランクリン・ルーズベルト大統領夫人エレノア・ルーズベルトはこの言葉が好きだった。

食糧不足に悩む国々の全部を、一人の力で飢餓から救うことはできない。

しかし、一人の子供に食糧を与えてその命を救うことはできる。

この世を精神的自滅の汚水溜めに突き落とすぞ、と脅しているかのような道徳荒廃の世相を、一人の力で押し戻すのは難しいが、一人の人間に信念の法則を気づかせることは可能である。

人は今決心すれば、問題の一部に加担するのではなく、解決の一翼を担う方の道を選ぶことができる。

私達は、下向きの動向に力を貸すのではなく、人間を高める勢力に加担する道を選ぶことができる。私たちは、絶望した人間ではなく、夢を見る人間になる道を選ぶことができる。

偉大な夢を見る人々は、社会で、あるいは世界的な規模で道徳を高める運動を始める。そして、この人々の夢は多くの場合実現するが、しかし、たとえ夢が実を結ばなくても、その時代に対して何らかの貢献をするものである。彼らは人々を失意の底から引き上げ、生活に笑いや、愛や喜びをもたらしてくれる。夢を見るがゆえに、彼らは創意に満ち、建設的で、人々をよく助ける。次のようなことを心に留めておこう。

- 世の暗さを罵るよりは自分から1本のローソクをともしよう。
- 一人の子供に食糧を与えよう。
- だれかを元気づけてあげよう。
- 誰かに希望の贈り物を届けよう。
- 家庭でも、職場でも、社会でも、1本のローソクの灯となって光つづけよう。

自分の力の及ぶ範囲において世の中のために尽くそう。

幸せな日本の中の不幸な人々を助けるのは大切であるが、より以上に飢えているアフリカや南アジアの人々を考えよ。そして、それ以上に人類を核戦争から守るために微力を尽くそう。



〈MIKO〉

参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より